

特集

人が結ぶ離島

現場力 関東運輸局 海上安全環境部 海技試験官

訪れたいまち 青森県大鰐町

建物も あなたと同じ 健康診断

平成28年6月より
定期報告制度が
変わりました



外壁タイルの打診



エレベーターの主索検査



遊戯施設の探傷試験



換気設備の風量測定



防火設備の駆動装置検査

定期調査を実施しよう



特定建築物 定期調査報告マーク



防火設備 定期検査報告マーク

建築物防災週間

建物の維持保全を適正に実施することは、思わぬ事故を防いだり、地震や火災等の災害時の被害を軽減したり、建築物の寿命を長持ちさせることにつながります。省エネルギー、地球資源の問題からも今後大変重要な事項です。

8・30水▶9・5火

国土交通省・建築物防災推進協議会(事務局：一般財団法人日本建築防災協会)

定期調査を実施しよう



昇降機等 定期検査報告マーク



建築設備 定期検査報告マーク

特集

人が結ぶ離島

日本にはいくつの島があると思いますか？

正解は6,852島※あります。そのうち本州、北海道、四国、九州、沖縄本島を除く6,847島を離島といいます。このうち78地域258島(平成29年4月1日現在)が離島振興法による離島振興対策実施地域に指定されており、国土交通省ではこれら離島地域の活性化に力を入れて取り組んでいます。

本土にはない魅力を求めて、離島を訪れる人や新たに定住する人もみられますが、多くの離島では本土を上回る人口減少や高齢化などの深刻な問題を抱えています。

いま、この離島で何が起きているのか、現地では課題に対してどのような対策や工夫を凝らしているのか、離島ならではの魅力とともに紹介します。



※出典 海上保安庁「海上保安の現況(昭和62年9月)」

離島はそこに暮らす人々の生活の場というだけでなく、わが国の領域・排他的経済水域などの保全、海洋資源の利用、多様な文化の継承、自然環境の保全と併せて、自然との触れ合いの場や機会の提供、食料の安定的な供給など、わが国および国民の利益の保護・増進に重

離島が抱える人口減少・高齢化問題

●わが国にとって国土保全、独自の自然・文化の面から重要な役割を持つ離島地域だが、人口減少と高齢化が問題に。
●これらの問題に対応するため、国土交通省ではさまざまな離島振興策を推進。
●本年度は新たに「滞在交流型観光を通じて離島創生プラン」をスタート。離島の魅力を最大限に発揮し、島を訪れる人を増やし、さらに暮らしの充実に向けて取り組んでいる。

ここがポイント!



島固有の資源を効果的に活用し 離島地域の活性化を図る

総論



国土と交通に関する 図画コンクール

身近にいっぱい 国土と交通

見つけて 描いて 応募してね!

〔締切〕平成29年9月29日(金)必着

テーマ

国土交通省(海上保安庁、気象庁、観光庁および運輸安全委員会を含む)の仕事に関するもの

- 道路、橋、川、駅、空港や港のある風景
- 鉄道、自動車、船、飛行機などの乗り物
- 道路やビルなどの工事現場の様子
- 地域の日常の光景や人々の暮らしの様子
- 住んでいるまちの様子
- 巡視船などの活動の様子、気象衛星、観光地の様子
- 未来の都市や乗り物など



平成28年度「国土と交通に関する図画コンクール」国土交通大臣賞受賞作品

- 応募資格 全国の小学1～6年生
- 表彰 国土交通大臣賞(各学年1点)
優秀賞(各学年3点)など

平成29年度「国土と交通に関する図画コンクール」

検索

http://www.mlit.go.jp/page/h29zugacon_boshu.html

●お問い合わせ／大臣官房広報課広報第一係 TEL: 03-5253-8111 (内線21526)

国土交通(145号) 目次

特集 人が結ぶ離島

総論

島固有の資源を効果的に活用し
離島地域の活性化を図る

事例1

離島留学の子どもたちが地域の刺激になる。
学びを産業化する小さな島の試み

事例2

島と島をつないで
瀬戸内の七つの島が思い描く離島の未来

「業務密着ルポシリーズ 現場力 FILE 46」
関東運輸局 海上安全環境部 海技試験官

「もっと知りたい!! Vol.08」
「海技士「水先人」になるには？」

「シリーズ探訪・探求 訪れたいまち 第42回」
青森県大鰐町

「コレって何？」
じゅんかん育ち

「MLIT TOPICS」
第1回「インフラメンテナンス大賞」の
受賞者を決定しました!

23

22

18

16

12

9

6

3

CONTENTS



しまっちゃんぐの様子

コーディネーターが島に赴いてワークショップを開催し、ビジョンやプロジェクトづくりをサポート



マッチング交流会では離島・企業側それぞれのプレゼンテーションのあと、交流・商談会が行われた



「しまっちゃんぐ」は、平成27年度から始まった事業です。離島と企業をつなぐマッチングの場を設け、商談などを通じて、離島の活性化につなげる目的で実施しています。具体的には、離島のニーズを掘り起こすために島でワークショップの開催、コーディネーターによるサポート、離島と企業をつなぐマッチング交流会の実施などを通じて、対話を重視した段階的な取り組みにより離島の活性化のための事業につながっています。「しまっちゃんぐ2016(秋)」には12の離島地域が参加しました。「しまっちゃんぐ」がきっかけとなり、北海道利尻

取組事例として、「多幸の島(タコのシマ)」として知られる愛知県南知多町の日間賀島で

指します。

また国土交通省では、本年度は島の魅力ある資源を最大限に活用し、交流人口を拡大する取り組みを通じて、離島の活性化を図ることを目的に「滞在交流型観光を通じた離島創生プラン」をとりまとめました。

本プランでは、農林水産資源をはじめ、島独自の自然、歴史、伝統文化、産業、生活様式などの多様な資源を活用して展開する生産からサービス提供までの一連の経済活動である「島業(しまぎょう)」の確立、各種情報を把握した「島たび・島めぐりコンシェルジュ」による旅行者のニーズに応じた案内などの一元的対応といった取り組みを進め離島の活性化を目指します。

離島の魅力を発信し、企業や都市部の人と離島をつなぐ

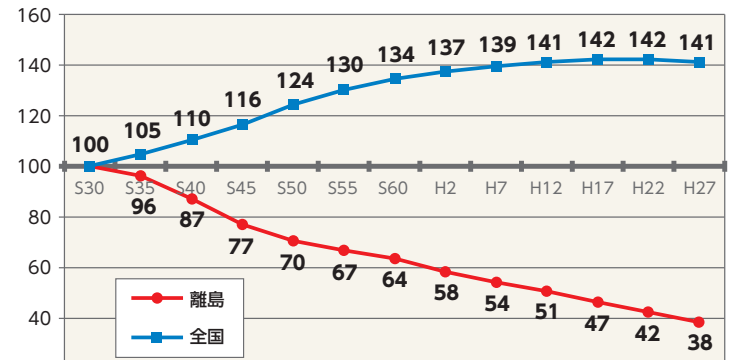
また国土交通省では、本年度は島の魅力ある資源を最大限に活用し、交流人口を拡大する取り組みを通じて、離島の活性化を図ることを目的に「滞在交流型観光を通じた離島創生プラン」をとりまとめました。

しかし、本土と比較して厳しい条件下にあります。昭和30年から平成27年までの60年間の人口推移を見ると、全国の人口は約4割増加しているのに対し、離島の人口は約6割減少しているという現状であり、人口減少と高齢化の進行は極めて大きな問題となっています。

人口減少の要因として、半分以上の離島には中学校や高等学校がなく、進学のために大多数の生徒が島外に出て行き、戻ってこない傾向にあること、離島の基幹産業である第一次産業の停滞などにより、就業機会が減少していることが挙げられます。離島での就業者数のうち

要な役割を担っています。

人口推移(S30年を100とした場合)



離島の人口は
約99万人(昭和30年)から
約38万人(平成27年)まで減少

平成29年4月1日時点における
離島振興対策実施地域の離島258島を対象
出典：国勢調査結果

離島活性化交付金を活用し 新たな産業も

そこで国土交通省では、離島のインフラ整備やメンテナンスだけでなく、離島における地域活性化を推進し、定住の促進などを図るための取り組みの支援にも力を入れています。

離島活性化交付金事業は、地域が主体的に実施する活性化事業の支援として実施しており、平成28年度は50市町村198件に支援を行いました。

離島活性化交付金を活用し、各離島では定住や交流の促進などを目的として、戦略製品の開発・海上輸送費の支援・空き家改修・地域情報の発信・離島留学・避難施設の整備などを実施しています。

7つの有人島からなる鹿児島県十島村では、村が所有者から空き家住宅を借り上げて改修し、Uイーター向けに貸与するなど、さまざまな取り組みを行ったことにより、国勢調査結

第一次産業および第二次産業従事者数をみると、昭和60年から平成22年にかけて約3分の1まで減少しており、農林水産業生産額も平成22年以降は下げ止まっているものの、昭和60年と比べると半減しています。

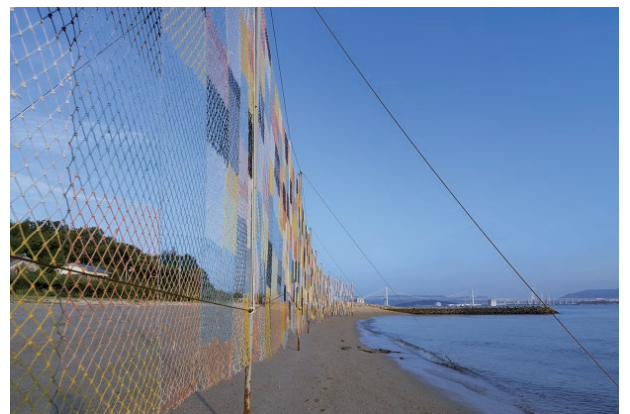
また、交通面も課題です。離島は海に囲まれているため、本土との交通は、航路もしくは航空路の利用が不可欠ですが、人口減少によって離島航路・航空路の需要が減少し、地域における生活交通の確保が難しくなっている現状があります。

「アイランダー」の様子



町(利尻島)、KDDI株式会社、利尻町商工会、NPO法人離島経済新聞社が結びつき、離島の地域活性化を目指す「しまものプロジェクト」の一環として、販路拡大や商品PRに課題を抱える利尻町内事業者を対象にしたオンライン講座「しまものラボ」が開始されました。

「アイランダー」は、島のもつ自然や歴史などの素晴らしさをアピールし、交流人口の拡大やUイーターの促進を図り、離島地域の活性化に向けた「離島」と「都市」との交流事業として、平成6年から毎年実施しています。昨年は約2000の島が参加し、2日間で約1万4000名の来場者が集まりました。本年は、11月18日(土)・19日(日)の二日間、東京・池袋のサンシャインシティで開催されます。島の人たちが直接魅力を伝えるイベントで、島のおいしい食べ物や、就業や移住についての相談ブースもあります。ぜひいらしてください。



五十嵐靖晃「そらあみく島巡り」 Photo:Yasushi Ichikawa

香川県丸亀市本島では、瀬戸内国際芸術祭の開催に向けてPR活動を実施するとともに、芸術祭ではワークショップを開催して交流を深め島の情報発信を行った



17時の清掃。サクランボを食べるのに夢中になっていた子どもたちは、時間になるとピタッとやめ、誰に言われるでもなく率先して自分たちの仕事を。馬糞は農家の人たちが肥料にしたいと希望してくる。



牧場の目の前は海。冬は厳しい寒さだが子どもたちは休まず馬の世話をしている。

「現在、留学生は13名。留学は1年間が基本ですが、中には2年3年と続ける子もいます」と教育委員会教育長 川村三千男さんは語ります。本年度は、1ターンの島にきた家族の子どもも含めて在校生は27名になりました。

新生入生に感想を聞くと「忙しい学校」という声が多く聞かれます。4月に入学してすぐに、5月に行われる島開きに向けて「島つ子ソーラン」という踊りを覚え、その後も体験学習・クラブ活動などの学校行事や島の行事への参加もあり、1年間の行

栗島では、高齢化以上に子どもの減少を深刻な問題と捉えています。島には小中学校を統合した栗島浦村小中学校がありますが、生徒数の減少が続く、学校存続に危機感を募らせていました。そこで栗島では地域の「コミュニティ」活性化のためには学校の存在は大きいと考え、平成25年度から「しおかぜ留学」という名称で離島留学をスタートさせました。

地域「コミュニティ」の核となる学校に活気を取り戻す



食べた“サクランボ”の種飛ばし大会が始まった

ここがポイント!



- 高齢化や子どもの減少が悩みだった栗島。平成25年度より離島留学「しおかぜ留学」をスタートさせ小中学校の生徒数を維持。
- 中学校のキャリア教育として実施した島の特産品を使ったアイスクリームが高評価。農家、島内外の企業を結び付けるきっかけに。
- 漁業・観光の主要産業に「学び」をプラス。学びを産業化し3つの柱の相乗効果を狙っている。

新潟県の北部、日本海に浮かぶ小さな離島栗島(栗島浦村)には海を望む場所に馬の牧場があります。その牧場で、軽トラの荷台に乗り「うわー渋いー」と言いながら頭上の桜の実を次々に食べる子どもたち。サクランボといっても食用の品種ではなく、普通の桜の実なのですが、そんなことはお構いなし。実は、この無邪気にはしゃぐ子どもたちは生粋の島っ子ではなく、この島に留学のためやって来たのです。

島が抱える人口減少・高齢化問題

栗島は新潟県村上市の岩船港から普通船で90分、高速船で55分の距離に位置し、東西4.4km、南北6.1km、自転車なら3時間で1周できるくらいの小さな島で、全域が県立自然公園に指定されるほど豊かな自然に恵まれています。主な産業は漁業と観光業。日本海の荒波は島に複雑な岩礁をつくり、そこに多くの魚がやってきました。この魚を狙って、沿岸では明治時代から続く「大誤網漁」という大型の定置網を使った漁が行われています。

島を訪れたときは、ちょうど午後の漁が終わったところで、漁協前の港に停泊している漁船には大漁旗が掲げられていました。栗島では鯛が有名ですが、6月には本マグロも水揚げされます。獲った魚はすぐに漁協で手際よく箱詰めされ、最終便の普通船で本土に送られていきました。

島が一番活気づくのは夏。定期的に訪れる釣り客も多くいますが、夏ともなれば県内外から多くの海水浴客で島



漁船の竿の先には大漁旗



栗島名物料理わっぱ煮。曲げわっぱに焼いた魚と熱湯、味噌を入れてから赤くなるまで焼いた石を入れたと一気に沸騰し香ばしい香りが立ち込める。最後にネギとお酒で仕上げる豪快な漁師料理。

※国勢調査人口より

が活気づきます。

しかし、近年は栗島も他の離島と同様に人口減少と高齢化に悩まされており、平成7年に474人いた島民は、平成22年には366人に減少しています。*。加えて、観光客数も年々減少しています。主要産業の一つである観光の衰退や高齢化に伴い、民宿の廃業や漁業に従事する人も減少しています。



栗島浦村 本保建男村長



栗島浦村教育委員会 川村三千男教育長

事は目白押しです。しかし他では体験できないことができることに子どもたちは楽しんでいます。

さらに留学生には牧場での作業も加わり、大切な役目です。登校前の朝6時半にエサやりなどをし、一度寮に戻ってから学校へ行き、放課後も牧場での作業があります。

「毎月1回、牧場や寮、校長先生など留学に携わる人たちと会議を行い、子どもたちの様子の確認や今後の方針などを決めていきます。昨年度は3学期だけ担当制を導入し、自分が担当する馬のエサやりから調教までを行うようにしたところ、自分がやらなくてはという意識がさらに高まり、馬への観察力もアップしたそうです」(川村教育長)。

子どもたちへの教育が地域の刺激に

馬の飼育を始めたのは、昭和の初めまで島に野生馬が生息していたことから、もう一度島の馬を復活させようという思いがあつたことでした。馬を世話することにより子どもたちの「命の教育」にもなっています。

「栗島では漁業と観光だけではなく、3つの柱として『学びの産業化』を進めています。単

に島に来て学校に通うだけでなく、地域のひとと関わり、仕事を手伝いながら地域の課題を解決していくことで、この3つの柱が結び付き、地域の活性化につながると考えています」と本保建男村長は語ります。

その成果の一つが、中学校のキャリア教育の一環として平成27年から3年計画で実施しているアイスクリームの開発です。当時、島に派遣されていた地域再生マネージャーが中心となりスタートしたこのプロジェクトは、この島だけで作られている大豆「一人娘」を使うことで、中学校と農家を結び付け、さらに島外の生協や菓子メーカーなど島内外を巻き込んだ一大プロジェクトとなりました。

「商品完成時には新潟県庁で知事への贈呈や記者会見も行い、子どもたちにはとても良い経験になりました。最初の年はパッケージや味を決め、販売方法を決めるだけでなく実際に販売体験も行いました。2年目には大豆も栽培し、さらに本年は製造・加工の体験もさせようと思っています」(川村教育長)。このアイスクリームは反響を呼び、大豆の生産を増やす農家も出てきて、島の新たな名産品として今後も販売する予定です。また、来年度も新たに島の生産物を使ったキャリア教育をスタートさせる予定です。

「学び」で元気になる「そんな島にしていきたい」

微増とはいえ島の人口が増えたのは留学制度が要因の一つといえます。子どもたちが増え

栗島

村上市

佐渡島

新潟県

岡山県西南部の笠岡市沖、瀬戸内海の中心に浮かぶ笠岡諸島。大小30の島々のうち、高島・白石島・北木島・真鍋島・大飛島・小飛島・六島の七つの有人島をつなぐ交通手段は船のみで、離島ならではののんびりとした空気が流れています。古くは海上交通の要衝として栄え、穏やかな自然環境のもと、多彩な伝統文化・歴史を刻んできました。しかし、生活環境の厳しさや産業の衰退なども相まって、この10年間で人口は3割強も減少するとともに急速に高齢化が進んでいます。こつした中で島の暮らしを守ろうと「NPO法人かさおか島づく

- 七つの島からなる笠岡諸島では、急速な人口減少・高齢化への対策のため、各島の特徴を生かした島おこしを実施。
- 観光だけでなくインターンシップ生とのまちづくりや、私立高校の通信制コースのスクーリングの場として若者との交流を進めている。
- 各島の暮らしのサポートや産業開発などをNPO法人が中心となり、島民の声を聞きながら連携して進めている。

都会からの大学生が島を活性化
インターンシップ事業を継続して実施

住吉港から普通船で1時間、笠岡諸島の最南端に位置し「灯台と水仙の島」として知られる六島では、六島まちづくり協議会の企画のもと、大学生が約1カ月間滞在しながらまちづくりを提言する「六島インターンシップ事業」を実施しています。滞在の世話をする三宅千代美さんは、大阪から島へ嫁いで子どもを育て、地域のまちづくり事業に参加しています。平成24年から8回の開催を通じて、空き家の調査や灯台と水仙の観光資源化、びわ茶などのお

目視による空き家の調査結果を反映した島の集落模型はインターンシップ生が作製。壁にはこれまでの活動が紹介された壁新聞が掲示されていた。「今も第二の故郷といって顔を見せに来てくれる子もいます」と話す三宅さん。



土産づくり、地域交流の場「島小屋」や花見スペース「ちえあパーク」の整備など、次々とインターンシップ生がプロジェクトを完遂するのを見守ってきました。取材時は、六島まちづくり協議会の「六島水仙植えるカムツアー」の準備中で、「島の高齢化が進む中、「六島ファン」の方々の手を借りながら、少しでも長く続けていけたらと思います」（三宅さん）。



空き家をリノベーションして作られたゲストハウス「島小屋」も、インターンシップ生の発案。六島まちづくり協議会の事務所でもあり、地域の交流の場にもなっている。

瀬戸内の七つの島が思い描く離島の未来

岡山県
・笠岡市

高島
白石島
北木島
真鍋島
大飛島
小飛島
六島

事例2

笠岡諸島(笠岡市)・岡山県

島と島をつないで



「ばっけ屋」のスタッフ。同店では地域おこし協力隊を中心に、島の人たちとさまざまなアイデアを出しながら商品を開発。



島の大豆「一人娘」を使ったもう一つの人気商品「煎り豆」

「島ではいま、さまざまなプロジェクトが並走しています。地域おこし協力隊が中心となって島の特産品を直売する『ばっけ屋』では、新たな島の商品を開発しています。地方創生の核は『まち・ひと・しごと』ですが、私はここに学びを加えたいと思っています。島全体で学んでいくことが目に見えない効果となって、島の人たちの覚醒を促すと期待しています」（本保村長）。

目下の島の悩みは住宅問題です。現在は家が足りなくて下宿している人もいるほどで、本年は4棟の村営住宅を建設予定です。

「将来は、島で学んだことを社会に役立てられるような人材を輩出することで、社会の役割を果たす地域になりたい。栗島の自慢はお年寄りです。気さくで優しく情が深い。接することで若者はその縁を大事にし、さらにお年寄りも若い人から学ぶこともあるでしょう。そうやってみんなが学ぶことで元気になるって欲しいです」（本保村長）。

留学を終えた子どもたちの中には、島に帰ってくる子もいるそうです。人と人との結びつきが大きな効果をもたらす、小さな島の大きな挑戦は、離島が抱える問題の解決策を導き出しているのかもしれない。

※平成27年国勢調査人口より

栗島で出会った人々

ゲストハウス「おむすびの家」



青柳花子さん



保育士として島にやってきて3年、島で人々が集まる場所を作りたいという思いから昨年9月にゲストハウス「おむすびの家」を開業しました。「開業する前は、すぐに辞めたりしないか何度も島の方に確認されました。オープンしてからは、1日目は民宿に泊まったお客さんが、2日目はうちに泊まるという話を宿の方にすると、『花子のところか、行ってこい!』と言われることもあるそうです。お客さんから『ここに泊まるだけで島の人に受け入れてもらえるようだ』と言われるととても嬉しいです。まずはこのゲストハウスを続けることが大切と考えます。島へ来る人を増やすためにも、続けることで、好きな地域で暮らしたいという人を助けられるようにしたいです」

あわしま自然体験学校

シーカヤックのプロガイドを育てるために、鹿児島県種子島から本年5月に栗島へ移住。「栗島は海の透明度が高く、アイランドパークとしてのポテンシャルが高いです。さまざまな技術をしっかり習得させるのが私の役目と思っています。さらに、その習得した技術を使って、人材や技術を他の地域に派遣させることも視野に入れています」



臼井章裕さん

あわしま牧場



羽下直子さん

責任者の羽下直子さんは診療所の看護師さんでもあります。もともと馬が好きで、看護師募集とともに馬の世話もできると聞いて栗島へ移住。「新しく入ってきた子は先輩に教わりながら馬の世話をしています。子どもたちは本当に成長が早くて、みんな使命感と責任感をもって仕事しているんですよ」



兵庫県出身で留学生の柳谷駿斗君は現在中学3年生。地元で乗馬クラブに入っていたほどの馬好きで、馬の世話ができたということで栗島にやってきて3年目です。「この島はとてものんびりして

いて、島の人たちはみんな優しいです。それに馬の世話が毎日できてうれしいです」



柳谷駿斗君

栗島浦漁業協同組合

組合員110名のうち、実際に沖に出る人は60～70人。その大半が50～60代と漁師の高齢化が問題となっています。「人数が少ないので、大規模網漁は3つあった定置網を今は2つにしています。最近、新たに35歳の子が入ってきましたが、あと5～6人は必要です。“定置がなくなると栗島もなくなってしまう”その思いがあります。なんとか人数を増やし漁獲量を増やしたいです」



脇川忠一
業務課長



冷蔵庫でじっくりと水分を抜き熟成中の魚。灰干しに使う灰は三宅島のもので、火山灰被害に悩む三宅島の人との出会いがきっかけになった。

真鍋島で「サービス」を開業し、この他にも暮らしをサポートする事業として買い物支援や有償運送事業、特産品作り、保育園運営、空き家対策など、多様な生活支援事業を展開しています。特産品の一つである笠岡諸島近海のおいしい天然魚介をもっと多くの人に味わって欲しいという考えから生まれたのが、灰干し「魚々干（うつつぼし）」です。北木島の女性たちが生産

島の大運動会



活支援を構想しました。しかし、近いとはいえ風土や言葉、気性、課題意識も異なる各島の人々をまとめるのは至難の業です。そこで平成10年に全島交流を目的とした「島の大運動会」を開催しました。島内外から5000人も人が集まり、そのとき生まれた横のつながりがNPO法人設立の礎となりました。

「既存の縦関係では暮らしは立ち行かない。協力の輪を横に広げ、連携の力で生活支援を行なっています。いわば、第二市役所的な立ち位置です」と理事長の嶋本浩二さんは話します。現在は、北木島、白石島、真鍋島で「サービス」を開業し、この他にも暮らしをサポートする事業として買い物支援や有償運送事業、特産品作り、保育園運営、空き家対策など、多様な生活支援事業を展開しています。特産品の一つである笠岡諸島近海のおいしい天然魚介をもっと多くの人に味わって欲しいという考えから生まれたのが、灰干し「魚々干（うつつぼし）」です。北木島の女性たちが生産



NPO 法人かさおか島づくり海社
嶋本浩二 理事長

に携わり、そこで雇用も生まれています。



旧北木小学校を活用し、島の自然環境を生かした研修活動が行える施設として北木島宿泊研修所（愛称「石切りの杜」）を開設。高齢者共同生活住居も兼ねている。

笠岡諸島への新しい玄関口

笠岡諸島への玄関口である住吉港。島への船を待つ間、港でちょっと小話に花を咲かせてほしい、そんな思いから「みなと・こばなし」の愛称で親しまれている笠岡諸島交流センター。平成29年3月に完成した真新しいスペースは、通勤・通学、買い物などで船を利用する人の待合所として、また地域コミュニティの活動場所としても使われています。八寸勾配の屋根が特徴的なデザインは、岡山県立大学デザイン学部の学生によるもので、若い人も集まる魅力的なランドマークとして、新たな交流拠点としての活用が期待されています。



飛島自治振興会
山本昇吉 会長

廃校になった小学校を通信制コースのスクーリングの場として利用



通信制コースのスクーリング（面接指導）などに活用されています。現在は約10名が、月1回ほど来島しますが「もっと多くの生徒や先生に来てもらいたい」と山本さんは期待を寄せます。「険しい表情の子どもも飛島では穏やかな表情に変わる。飛島の風土にはそんな効果があるようです」（山本さん）。昨年は飛島特産の椿の実から精製する天然椿油製造のため

潮待ち風待ちの島と呼ばれ、国の名勝に指定されている白石島。その昔、源平の合戦での戦死者を弔うために始まったとされる盆踊り「白石踊」や弘法大師ゆかりの開龍寺、国指定天然記念物の奇岩「鋸岩」など豊かな観光資源を持ち、白石島の海水浴場は、岡山県の三大海水浴場にも数えられています。また、外国人が主に利用する国際交流ヴィラもあり、外国人観光客の姿を見かけることもあります。そんな白石島も平成に入り、人口・観光客ともに減少傾向にあることから、島の魅力を改めて伝える活動が活発化しています。公民館長の天野正さんは、白石踊保存会の役員やかさおか島づくり海社の理事を務め、その活動を支援する一人です。「無理をしても続かない。各自がやりたいことにじっくり取り組める環境を用意するのが私の仕事です」と語ります。また「地域おこし協力隊」など、島外からの支援者を受け入れる取り組みも進めており、平成29年4月には大阪府出身のムヤ歩さんが着任しました。ムヤさんは国際交流ヴィラの管理を行いながら、島の課題について解決を図りたいと目を輝かせます。「多

各島で個々に課題に取り組んでいたのでは、課題解決への対応はなかなか立ち行きません。NPO法人かさおか島づくり海社は、平成8年にこうした島の現状に危機感を持つ有志が集まって熱心な議論を行い、「島を一つに、心は一つ」の考えから、諸島を一つの島と見立てた生

様性を受け入れる包容力が白石島の魅力を増していると思います。早く島になじみ、定住促進の良い事例になりたいですね（ムヤさん）。



国際交流ヴィラ



ムヤ歩さん



天野正さん



白い砂浜が美しい白石島



五つの峰を回る遊歩道。稜線沿いを縦走でき、山や海の景観も楽しめる。

笠岡諸島一番の高齢化の島 切迫した声に耳を傾けて

大飛島、小飛島の2島からなる飛



飛島に自生するヤブツバキから精製した椿油

の種子粉碎機なども導入し、量産化の体制を整えました。「できることをやる。そのために人の力が必要です」と山本さんは語ります。

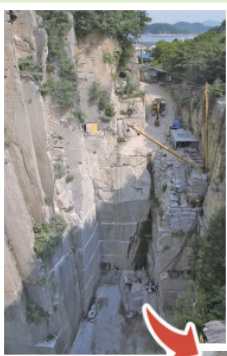
白石島 豊かな観光資源を活用し 再生を図る

北木島で出会った人

鶴田石材株式会社 鶴田康範さん



北木島は、靖国神社の鳥居や大阪城桜門などにも使用され、江戸時代から銘石として知られる北木石の産地です。しかし海外産の台頭で最盛期には島内に127カ所もあった採石場も現在は2カ所のみです。明治25年創業の石材会社の4代目を引き継ぐ鶴田さんは、石材業の振興とともに観光にも力を入れています。「製品化は採取の2割に厳選し、品質で勝負しています。美しく粘りがある北木石の魅力を伝えていくため、墓石や建材だけでなく、お土産として持って帰れるコースターなども作っています。また石切唄の伝承をはじめ、採石場に「石切りの溪谷（たに）展望台」を設置し、今年4月に映画館跡や採石跡地をルートに加えた日帰りツアーも始めました。父は「職人は見せ物じゃない」と展望台やツアーに反対しましたが、発信しなければ伝えていけません。この島に根付いた石文化を肌で感じて欲しいです」（鶴田さん）。平成27年度には石の文化全般が「かさおかブランド」に認定されました。ビルの23階にも匹敵する高さから見下ろす展望台での絶景は、新たな観光スポットとして注目を浴びています。



展望台から作業場を見下ろす。海面より40m下で石の切り出し作業。瀬戸内海の海岸線よりはるかに下だ。



関東運輸局 海上安全環境部 海技試験官

船舶職員を目指す人々に必須の資格

「海技士」などの国家資格を担う専門家集団

大型の船舶に職員として乗り組むために、必ず持つていなくてはならない「海技士」や船長のアドバイザーとして船を目的地まで案内する「水先人」の資格を取得するためには国家試験に合格する必要があります。今回は、この試験制度を支える海技試験官にスポットを当てて紹介します。



海事関係の国家試験を 実施する専門家

海技試験官の仕事を一言でいうと「海事関係の国家試験に関するあらゆる仕事を手がける専門家」です。船舶に関する豊かな実務経験と専門知識を持ち、試験の実施計画の立案から口述試験の問題作成、試験の実施、採点から合否の判定までを一貫して担当しています。まさに、わが国の船舶実務に携わる人材を

認定する上で重要な役割を担っています。

そんな海技試験官の1年間のスケジュールをのぞいてみると、これがなかなかハードです。

基本となるのは海技士の定期試験です。この試験は年4回実施されるもので、筆記試験と口述試験の2つの試験が行われます。各運輸局の海技試験官は国土交通本省で作成された筆記試験問題の内容を検討して実施します。続いてその合格者に口述試験を行います。その合格者に口述試験をスタートしてから終了までに約2カ月かかります。これを年4回行うので、年間で延べ8カ月を海技士試験のために費やすことになります。

過去4年間の実績を見ても、海技士試験の受験者数は1万人台の前半からじわじわと増えており、海技試験官の役割はますます重要になってきています。

海技士試験に加えて 水先人試験なども 海技試験官の重要な業務

海技試験官にとって、海技士の定期試験だけでなく、水先人の試験も重要な業務です。水先人と

は、自分の担当する水域の水路や港の

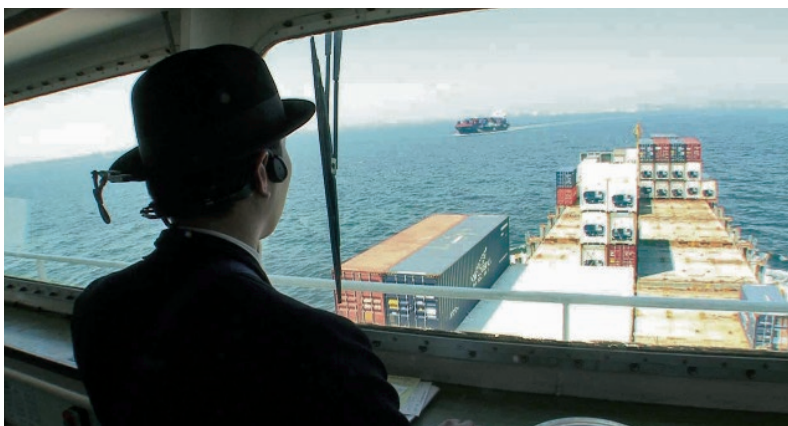
状況を熟知している専門家で、国内外の他の水域からやってきた船舶が安全に航行できるよう、船長にアドバイスをを行う役割を果たします。

水先人試験は年1回実施され、6月の筆記試験の合格者が、12月の口述試験に進みます。

「筆記試験の問題作成は海技士試験と同様に国土交通本省の担当なので、私たちは内容の検討だけです。口述試験は、自分たちで問題を作成しなくてはなりません。というのも、港湾の状況や船舶が航行する水路は常に変わっていくので、海技試験官がそれぞれの水域を実際に調査し、最新の情報に基づいて問題



普段はデスクワークが多いという勝木。口述試験問題作成のためには、実際に港を見て問題を考える。



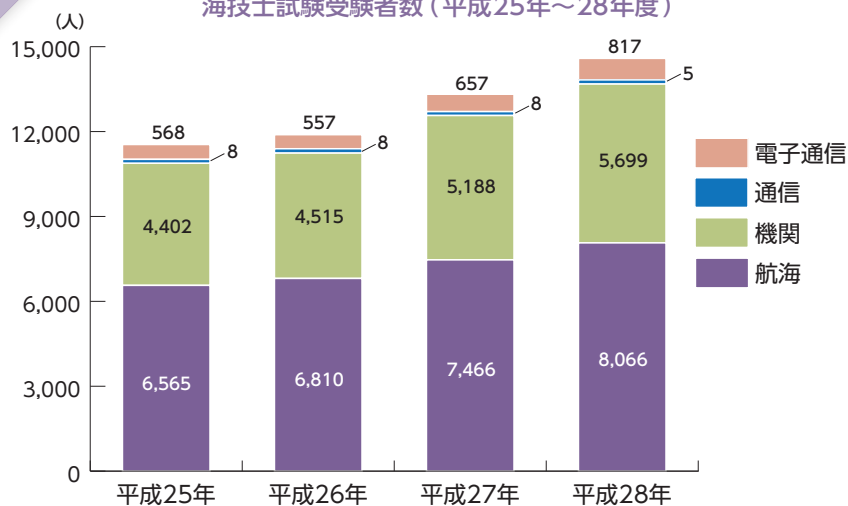
水先人による船舶の案内の様子

を作る必要があるからです」と語るのは、首席海技試験官の勝木祐三です。

関東運輸局では、水先人試験は1級〜3級までの初めて水先人になる人の「新規水先人試験」と、各級から昇級する「進級試験」の4種類を行っていてそれぞれに問題を作り分けなくてはなりません。

「もちろん、それぞれの試験の合格基準は公開されています。基本的な設問を基に、港湾の調査を行い、試験の区分

海技士試験受験者数（平成25年～28年度）



(注) 受験者数は、筆記および口述試験の延べ人数



インド国ムンバイでの3級海技士（電子通信）の筆記試験の様子

こともあり、当然国内での試験もあることで、全員が年間を通じてほぼフル稼働の状態です。

「むむに毎年3月には、水産系の高校や大学の新卒者に合わせて臨時の海技士試験も行います。いくつもの試験の年間計画を考えなければならぬので、今行っていることと次に行うことを常に同時に考えながら、いかに効率よく間違いなく動けるかが課題です」と次席海技試験官の疋田健次は語ります。

海洋国日本の船舶の安全な航行を、優れた人材の認定という側面から支える海技試験官は、まさに縁の下の力持ちともいべき存在です。

海技試験官の仕事で一番大事なのは、「絶対に間違っ

はいけない仕事だということ」を常に念頭に置いておくことです。船乗りを目指す人の人生がかかっているのですから、試験の監督から採点、合格発表まで一つでも間違いがあつてはいけません。常に油断せず肅々と職務を遂行することを自分に言い聞かせています。



海技試験官は間違いが許されない仕事 油断することなく肅々と務めるのみ

首席海技試験官 勝木祐三

海技試験官になってから、すでに20年近く経ちます。それまでは主に船員教育の分野での仕事に携わってきました。商船大学を卒業後、当時の運輸省航海訓練所に入所して10年近く練習船の教官として勤めました。その後は、船舶検査官などを経て佐賀県唐津にある運輸省唐津海員学校（当時）に教員として赴任し、さらにODA（政府開発援助）で海外に行った後に現在の仕事に就くことになりました。

海員学校での経験からいって、船乗りはあまり難しいことを考えるよりも、耐える力が大事だと感じています。特に海員学校では中学を卒業してすぐに入ってきたやんちゃな坊主たちが相手なので、技術や知識よりも常識や挨拶の仕方を教えるのが先でした。でもそつう手のかかった生徒の方が、現場での修行に耐えて立派な船乗りになっています。この教え子たちが、今でも訪ねてきてくれるのが一番嬉しいですね。



受験者の採点について公平性を期すため複数者で協議

海技試験官の主な業務内容

- 海技士試験
- 水先人試験
- 救命艇手試験
- 救命艇手資格認定試験
- 海外で行われる承認試験
- 海外で行われる臨時試験
- 乗組み基準特例検査
- 運航労務監理官研修 など

に合わせて適宜出題の仕方を変えていくといった工夫をしています。それでも、何種類も問題を作成するのはかなり頭

を悩ませます」（勝木）。

このほかにも、救命艇手試験や救命艇手資格認定試験も海技試験官の業務です。旅客船や旅客船以外の最大搭載人員100人以上の船舶では、乗組員の中から救命艇手を選任しなければならぬ決まりがあります。救命艇手試験は日本人向けに筆記試験と実技試験を行うもので、救命艇手資格認定試験は外国（フィリピン、韓国など）の救命艇手資格を有して、日本の旅客船に乗船している外国人乗組員が対象となります。

また、主に屋形船が対象となる乗組み基準特例検査や運航労務監理官に対



救命艇

※ 救命艇手は救命艇に必要な食料や航海用具を積み込んだり、旅客の誘導、救命設備の操作を行う。

する研修など、試験以外の業務も行なっています。

外国人受験者の増加に 海外の各地で承認試験を実施

さらに海技試験官が担当する業務は、国内での試験だけではなくありません。関東運輸局は、海外で実施されるさまざまな試験の唯一の窓口になっていて、海外で行われる承認試験も同局の海技試験官が担当しています。

近年は日本人の船員不足が続ぎ、外国人乗組員を採用する船社が増えています。しかし日本籍の船舶に職員として乗り組むには、やはり海技士資格が不可欠です。

「承認試験はこうした外国人に、わが国の海技士としての資格承認を行うもので、関東運輸局がその事務処理などの業務を担っています。外国人が対象の試験なので、受験者の利便性を考慮してフィリピン、インド、ブルガリアの3カ国で実施されています。この試験に合わせて年間8回、3級海技士（電子通信）資格の臨時試験が実施されるので、私たちも海外まで出向いていきます」（勝木）。

現在は、世界16カ国を対象に承認試験を実施しており、毎回かなりの数の受験者が集まってきます。年間の合計受験

基礎をきちんと理解している人が 確実に合格できる問題作りを

次席海技試験官 疋田健次

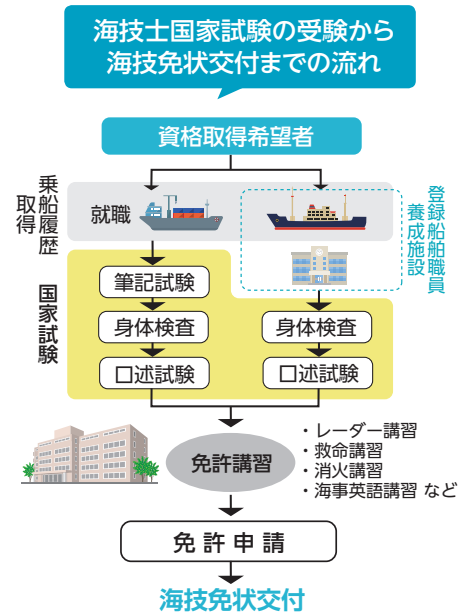
海技試験官になる前は外国航路の商船の航海士でした。約4カ月かけて世界中を回る航海を年2回のペースで17年務めました。しかしそのうち業界全体が縮小し、船会社の統合なども起こりました。将来のことを考えていたところに、知り合いの海技試験官から声をかけられて、自分もチャレンジしてみようと思った。

しかし、これまでずっと船の生活だったのが一転、デスクワークになったので、本当に務まるのだろうかと非常に心配しました。それだけに海技試験官になつて一番苦労したことは口述試験の問題作成です。最初は先輩の横について見よう見まねで教わりますが、相手も忙しいので1〜2回見せてもらったらあとは自分であれこれ工夫しなくてはなりません。受験者がどんな船に乗っているかをイメージしながら、自分の航海士としての経験に照らしてどんな問題が最適か考えていくのですが、なかなか難しいです。実に奥深い世界だと毎回痛感しています。海技士試験は船乗りになる人にとって重要な入口です。それだけに口述試験では、基礎をきちんと理解しているかを第一に見ますし、そういう実力を持った人が合格できる設問を心掛けています。



横浜港に停泊中の客船

「海技士」「水先人」



もし皆さんが海技士になって船舶の仕事に就きたいと思つたら、どうすればこの資格を手に入れることができるのでしょうか。答えは一つ。「海技士国家試験」に合格することです。

海技士国家試験は、年4回行われる「定期試験」と、必要に応じて実施される「臨時試験」があります。海技士国家試験を受験するためには、3種類ある海技士の資格ごとに必要な乗船履歴が定められており、今まで仕事などで船舶に乗った経験のない人は、受験することはできません。

ただし、独立行政法人海技教育機構や商船系の大学や高等専門学校など国土交通大臣の登録を受けている船舶職員養成施設を卒業すると、在学中に受験に必要な乗船履歴を得られるほか、筆記試験が免除されます。もし中学生、高校生の皆さんで将来は船舶での仕事に就いてみたいと考えている人は、こういった教育機関を進学先を選ぶのもよいでしょう。

「海技士」になるには
どんな方法が？
キャリアに応じて選べる、
海技士国家試験合格までの道のり



独立行政法人海技教育機構の練習船「銀河丸」ブリッジにおける航海科実習生の実習風景



独立行政法人海技教育機構の練習船「日本丸」エンジンルームにおける機関科実習生の実習風景

「海技士」「水先人」

船舶の運航、安全な着岸に必要な不可欠な資格！

「海技士」「水先人」になるには？

周囲を海に囲まれた日本にとって、船舶は物資や人を運ぶ重要な手段です。それだけに、船舶の乗組員にはおのおの持ち場にふさわしい能力が求められます。海技士資格は、そうした船舶の乗組員のうち、特に重要な役割を担う船舶職員に必要な知識や技術を細かく体系化し、国家資格として定めたものです。一般の方はあまりなじみのない資格ですが、船舶職員にとって必須の「海技士」、そして船長のアドバイザーとして船を目的の地まで案内する「水先人」について紹介します。

「海技士」ってどんな仕事？

20トン以上の船舶の職員になるために必要な国際的な船員資格

「海技士は、大型船舶の船舶職員として乗り組むときに、必ず必要な船員資格です」と言われても、一般の方は何となくぼんやりとしたイメージしかわかないのではないでしょう。

つか。この「大型船舶」とは、総トン数20トン以上の船のことを指します。漁船や貨物船、客船など、どんな船であつてもこの大きさを超える船に乗り組む場合には、海技士の資格である「海技免許」を持つていなくてはなりません。また、この免許は国際条約（STCW条約・船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約）に基づいた国際的に通用する船員資格です。

そして、船舶にはいろいろな職種の人々が乗り組んでいますが、この中で、船長や航海士、機関長や機関士、通信長や通信士といった、船のさまざまな仕事の責任者を務める人たちが「船舶職員」と呼ばれており、「海技免許」が必要となっています。彼らを補助する役割の人たちは、甲板部員や機関部員と呼ばれており、それぞれ法律で決められています。

職種や航行する海域によって
必要な資格が細かく決められている

船舶の航行する区域や大きさによって、必要とされる海技士の資格も細かく決められています。例えば日本沿海を航行する小さな船舶なら

「水先人」は、
港や航路を知りつくした
プロフェッショナル

「水先人」とは、航行が難しい水域や港湾を航行する船舶に乗り込んで、船舶を安全に目的の地まで案内する、船長や航海士の頼もしいパートナーです。一言でいえば海上での案内人、海の世界では「パイロット」と呼ばれています。「パイロット」と聞くと、多くの方が飛行機の操縦士を思い起こすかもしれませんが、実は「パイロット」の語源は、この「水先人」からきています。

船舶を安全に目的の地まで案内する重要な任務だけに、水先人の免許を取得するには、必要な乗船経験と3級海技士（航海）以上の海技免許があること、登録水先人養成施設の課程を修了すること、水先人試験に合格することが求められます。免許は1～3級の3種類と自分が担当する区域（水先区）に分かれています。どんな大きな船でも案内できる1級水先人の免許を取得するには、船長を2年以上

水先人の免許制度

1級水先人	2級水先人	3級水先人
対象 船長2年以上	対象 一等航海士2年以上	対象 新卒者、航海士など (1年以上の乗船経験)
養成施設 ●座学(3カ月) ●シミュレータ(1.5カ月) ●タグ乗船(0.3カ月) ●水先実務(3.7カ月)	養成施設 ●座学(5カ月) ●シミュレータ(3カ月) ●タグ乗船(0.3カ月) ●水先実務(6.7カ月)	養成施設 ●座学(6カ月) ●シミュレータ(5カ月) ●タグ乗船(1カ月) ●水先実務(9カ月) ●商船乗船訓練(2カ年)* *商船乗船訓練は、航海士・船長の乗船履歴が1年以上ある者(平水区域を除き、1,000GT以上)には求めない。
8.5カ月間	1年3カ月間	3年9カ月間
国家試験(身体検査、筆記試験、口述試験)		
1級水先人免許 ●無制限	2級水先人免許 ●5万GT以下の一般船 ●2万GT以下の危険物船	3級水先人免許 ●2万GT以下の一般船 (危険物船は不可)

(注) 3級→2級、2級→1級に進級するには、おのおの2年間の当該級の水先人経験を得た後、養成施設の修了及び国家試験合格が必要(この場合、養成・試験とも一部は省略・免除)。

「海技士」「水先人」の業務や資格制度の詳細については、
国土交通省のホームページをご覧ください。

http://www.mlit.go.jp/maritime/maritime_tk10_000006.html

着岸作業の様子

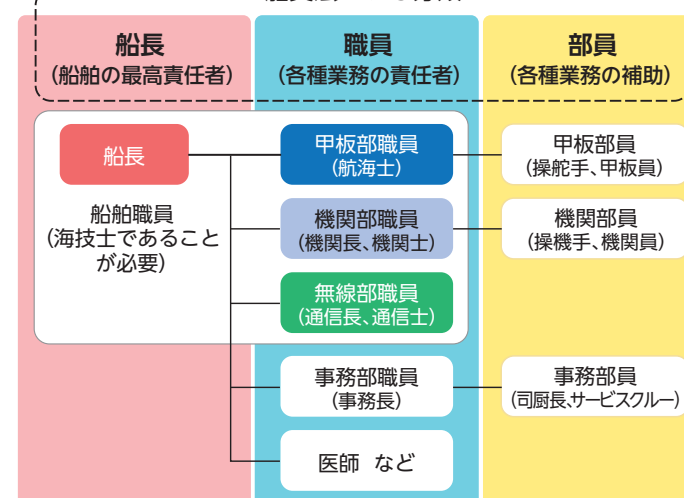


ば、比較的取得の容易な5、6級の海技免許で船長になれるが、遠洋まで航海する総トン数5千トン以上の大型船舶の船長になるには、最上級資格である「1級海技士（航海）」の海技免許が必要です。このように航行海域が広くなり、船舶も大型になるほど、高度な知識や技量が求められるようになっていきます。

海技士の資格

船長、航海士の資格	機関長、機関士の資格	通信長、通信士の資格
1～6級海技士 (航海)	1～6級海技士 (機関)	1～3級海技士 (通信) 1～4級海技士 (電子通信)

船員法による分類



第42回
シリーズ探訪・探求
訪れたいまち
おおわにまち
青森県大鰐町



官民協働で田舎町再生に

取り組むまち 大鰐

津軽の奥座敷として古くから親しまれてきた大鰐町。青森県津軽地方最南端に位置し、温泉とスキーの観光の町として繁栄してきた。
現在、人口減少や高齢化の進行、厳しい財政状況など困難な課題を抱えながらも、津軽藩の湯治場として利用されていた温泉や「大鰐温泉もやし」などの伝統を生かし、「湯の郷・雪の郷・りんごの郷おおわに」の実現を目指したまちづくりを進めている。

温泉とスキーの町

大鰐温泉の歴史は、800年以上前ともいわれ、当時、東国行脚中の仏僧、円智上人が発見したと伝えられている。また、文禄2年（1593年）に津軽初代藩主為信が眼病にかかった際、夢に見たお告げに従い、大鰐の温泉で目を洗ったところ、眼病が治ったという言い伝えもある。

史実には、慶安2年（1649年）に津軽三代藩主信義が、大鰐に御飯屋を設け、湯治をしたという記録が残っている。明治28年には奥羽本線大鰐駅が開業したことから大勢の湯治客でにぎわうようになった。現在で



湯魂石薬師堂
眼病が治った津軽初代藩主為信が、感謝の意を込め大石の上に祠を建立し、名付けた



大正元年創業の「まみや煎餅店」の店主 間宮 稔さん。「豆煎餅は、水の代わりに国産はちみつを使っているのが特徴です。豆を限界までいれているので食べごたえがあります。ごま煎餅は、青森県で一番おいしいですよ!」

大円寺

住職 工藤 弘典さんと大日様

も、昔ながらの公衆浴場や温泉旅館が数多く立ち並び、町外から観光客を呼び寄せる重要な観光資源となっている。
また、大正11年には大鰐で初めてスキー講習会が行われ、大正14年には「全日本スキー選手権」が開催、以降競技スキーのメッカとなっている。

謎多き「大鰐の大日様」

町の中央に位置し「大鰐の大日様」と親しまれている大円寺。その起源は、奈良時

代に、聖武天皇の国分寺建立に際し、本尊大日如来を阿闍羅山の大安国寺に安置したことに始まる。

本尊大日如来は、大正9年に国宝に指定され、昭和27年には国の重要文化財に指定されたが、この本尊、実は大日如来ではなく阿弥陀如来像なのである。なぜ阿弥陀如来像が大日如来と呼ばれ、信仰されてきたかはわかっていない。工藤住職にお話を伺った。

「津軽地方には、自分の生まれた年の干支を守り神として信仰する一代様という独特の風習があり、人生の節目に、自分の一代様にお参りする習慣が藩政時代から続いています。大日様は末申の守り本尊です。大日如来はすべての元で、阿弥陀如来など他の仏様に姿を変えるとされています。末申の守り本尊がなかったため、阿弥陀如来像を大日様として祭っていたのではという説もあります。また、仏像は、古くから言い伝えがありますが、平安から鎌倉時代にかけて作られたのではないかと考えられています」

町の危機と

「OH!! 鰐元気隊」結成

バブル期にスキーリゾート開発を推進していたが、バブルの崩壊に伴い温泉施設は閉鎖に追い込まれた。町には多額の債務が残され、平成20年に財政破綻の懸念がある「早期健全化団体」に指定された。町が疲弊していて、親が子どもに「この町は借金でもう駄目だから、おまえはいい学校に入って東京に就職しなさい」というのが、当たり前な会話だったという。この言葉が現実になってしまつことに危機感を抱いた町民有志16人が、平成19年に町おこし団体「OH!! 鰐元気隊」を立ち上げ、地域再生に向けて動き出した。

平成20年から、大鰐小学校の5・6年生全員をメンバーとした「OH!! 鰐元気隊キッズ」も活動している。「OH!! 鰐元気隊」の発起人（プロジェクトおおわに事業協同組合 副理事長）の相馬さんは「OH!! 鰐元気隊キッズ」の活動が、『OH!! 鰐元気隊』の一番大きな柱です。どうしてかという、子どもと親に意識改革を促してもらったためです。キッズと清掃活動をするときは、大人は子どもたちに大鰐のよい所だけを話すというルールを設けています。そして秋には東京飯田橋にあるアンテナショップで、自分が作った大鰐高原野菜



プロジェクトおおわに事業協同組合 副理事長 相馬 康徳さん。大鰐町PRのため、全国を飛び回る。「今後、温泉ブックカフェにして、ゆっくり滞在して欲しいと思っています。近隣の市町村ともコラボしながら、地域全体が元気になる取り組みを行いたい」と熱く語った。

を売るという販売体験学習を行っています。この夜には、一流レストランのシェフや、大企業経営者、百貨店のバイヤーなど著名人をお呼びしパーティーを開催していて、著名人から子どもたちへ大鰐町のよい所を発信してもらっています。子どもたちは、この交流を通じ、大鰐の良さを確認し、町に自信と誇りをもって戻り、親に「大鰐が借金で駄目だというのは間違っている。東京のすごい人たちがよい所だと言ってるよ」という話をします。その親から、「大鰐の良さを子どもから気付かされた。」という感謝の電話が毎年きます」と語る。

人生かけて 日本の田舎町再生の お手本づくり!!

平成20年秋に、町営だった日帰り温泉施設を備えた大鰐町地域交流センター「鰐come」が指定管理者を募集すること

本堂

手水舎



弘南鉄道大鰐駅



弘南鉄道大鰐線往復乗車券と「鰐 come」入浴券・お買物券付きお得きっぷ「さっパス」は月に300枚以上も売れているロングヒット商品！

弘南鉄道大鰐線存続の取り組み

弘南鉄道大鰐線（中央弘前―大鰐間13.9キロ）は、利用者が大幅に減少し大変厳しい状況に置かれており、平成25年に廃止の方針が表明された（後日撤回）。これを受け、弘前市と大鰐町、国などが平成25年8月に「弘南鉄道大鰐線存続戦略協議会」を設立し、運行存続に向けた協議・検討が継続的に実施されている。

平成27年度には、各種企画切符の販売など多様な利用促進策を講じるとともに、沿線の中学3年生・高校生に公共交通での高校通学を促す情報を掲載したカタログやブックカバーを配布したほか、沿線住民には事前アンケートに無料乗車券な

どをつけ事前と事後にアンケートに添える過程で自然と利用意図（利用してみようという意識）の活性化を図るトランプ・フィードバック・プログラムを実施するなど、対象を明確化した戦略的な「モビリティマネジメント」を展開した。

また、事業者はもとより、商店街・学生・住民・NPOなど多様な主体が参画し「つながれー大鰐線」つなごうみんなの交通「コンソーシアム」を設立し、イベント列車なども企画している。

この結果、利用者増加という明確な成果をもたらし、平成28年地域公共交通優良団体国土交通大臣表彰を受賞した。

今後も、地域の関係者がそれぞれに役割を分担し、地域づくりと一体となった取り組みを継続することにより、大鰐線の一層の活用を図ることとしている。

この町には、町を愛し、自分たちの力で、人生かけて、まちづくりに取り組んでいる人がいる。そして、その取り組みをたくさんの方々が、町外からも応援している。

温泉に漬かり湯（ゆ）つくりと滞在し、この町の魅力、そして、町民の熱意を感じてもらいたい。

●地域づくり表彰とは

創意と工夫を活かした広域的な地域づくりを通して、個性ある地域の整備・育成に顕著な功績があった優良事例を表彰することによって、地域づくり活動の奨励を図ることを目的に、昭和59年度から実施。

●地域公共交通優良団体国土交通大臣表彰とは

地域公共交通に関する取り組みが他地域の模範となるような顕著な功績がある団体を表彰することで、優良事例の情報提供などを行うことを目的に、平成21年から実施。

わにもっこ

「古くから林業が盛んな地域でしたが、昭和50年代に外材が入ってきて価格が暴落しました。そこで、『林業に付加価値をつける何かを』ということで『わにもっこ』を平成元年に設立しました。現在、約7割は県産材を使っており、注文を受けて青森ヒバを使った浴槽などの大きな物から、おもちゃなどさまざまな物を作っています」と語る山内 将才さん。



JR東日本寝台列車「四季島」で使われているお弁当箱は、「わにもっこ」の製品。東京の有名企業からの注文も多い。



展示館「こかげ」

大鰐町ホームページ
<http://www.town.owani.lg.jp/>



歓迎大鰐町

産直・売店「メルカート」



「茶臼餅」や「マルシチの味噌」などの大鰐名物



「しいたけ」や「山菜」などの旬の地元産野菜



大鰐温泉観光案内所

平成28年12月に「大鰐温泉観光案内所」を開設。左から、観光コンシェルジュの藤原さん（地域おこし協力隊）、山田さん、藤森さん



朝礼から1日が始まる。売り上げ報告のほか、「あっち向いてはい」や、隣の人の良い所を褒める「いいねータイム」の時間もあり、従業員がリラックスして笑顔で仕事にとりかかれるようになる。ほかに、「今日は何の日」を従業員全員で共有し、お客様とのコミュニケーションのきっかけにして、お客様を名前でお呼びできるようにしている。

大鰐町地域交流センター「鰐 come」

になった。経営は赤字続きで、指定管理料0円という条件であったが、「OH!! 鰐元気隊」の役員会で「私たちがやらなければ」と満場一致し、「OH!! 鰐元気隊」発起人のうち家族の同意が得られた者9人で出資し、まちづくり会社「プロジェクトおおわに」に事業協同組合を設立し、指定管理者へ応募した。「プレミアム付き温泉入浴前

大鰐温泉もやし

温泉熱と温泉水のみを用いる独特の栽培方法により、少なくとも350年以上前から栽培されてきた伝統野菜で町の特産品。長さが30cm以上もあり、独特の芳香とシャキシャキとした歯触り、味の良さ、品質の高さで人気が高く、優良な大鰐産品の先兵である。

作り方は、一子相伝で代々受け継がれてきたが、生産者が一時期4軒にまで減ってしまったことから、町が2005年から後継者確保に乗り出し、現在7軒で栽培している。主に冬期間の栽培だったが、現在は、2軒の農家が周年化にチャレンジしており、一層のブランド化、増産に取り組んでいる。



昔ながらの土耕栽培。原料は、大鰐町にだけある品種「小八豆」。一度栽培に使用した土は、土の栄養分を補強するため、温泉をかけて1年間寝かせる。



大鰐温泉もやしラーメン。近年は、イタリアン、フレンチの食材としても使われている。

※ 利用者一人一人の移動が社会にも個人にも望ましい方向に、自発的に変化することを促すコミュニケーションを中心とした交通施策意識改革を働きかける施策

第1回「インフラメンテナンス大賞」の受賞者を決定しました！

インフラメンテナンス大賞は、国内の社会資本のメンテナンスに係る優れた取り組みや技術開発を表彰し、広く紹介することにより、事業者や団体、研究者などの取り組みを促進し、メンテナンス産業の活性化を図るとともに、インフラメンテナンスの理念の普及を図ることを目的として実施するものです。

国土交通省のほか、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、防衛省の6省が参加し、各省の所管する施設について、優れた取り組みや技術開発のベストプラクティス（成

功事例）の関係者（個人またはグループ）に対して、有識者による審査を経て、各大臣賞、特別賞、優秀賞を決定しています。

第1回は、計28件の受賞者（うち国土交通省案件受賞者は7件）を本年4月に決定しました。今回は、その中から国土交通大臣賞の3件の概要を紹介します。

今後はインフラメンテナンス国民会議を通じ、受賞案件の水平展開に取り組むほか、次回応募案件の掘り起こしや一般の方への広報も行っています。

●メンテナンス実施現場における工夫部門

「下水道管のビッグデータ」を活用したメンテナンス

東京都区部の下水道は国内最大の規模を誇り、下水道管網の総延長は16,000kmにも達しています。この膨大な下水道管のメンテナンスを効率的かつ効果的に実施するために、「下水道管のビッグデータ（下水道管基礎情報をはじめとした工事情報などに関する膨大な情報）」を補修や再構築などの計画立案・工事発注に活用しています。

下水道管の基礎情報や道路陥没被害の発生状況などの維持管理情報を下水道台帳情報システム（SEMIS[※]）に集約し、さらに管路内調査や完了した工事の情報をフィードバックしてデータのスパイラルアップを実現しています。また、SEMISは全職員が活用できるようになっており、下水道管の確実な状態把握と機能保全を実施しています。

※Sewerage Mapping and Information System

東京都下水道局



●メンテナンスを支える活動部門

しゅうニャン橋守隊(CATS-B[※])による猫の手メンテナンス活動

しゅうニャン橋守隊は地方のインフラメンテナンスに危機感を抱いた有志の声掛けから始まった産官学民のメンバーで構成される山口県周南市の任意団体です。

猫のように気ままに不定期に集まり、インフラに関する座学と市内の身近な橋梁の清掃や簡易点検を行うことを主な活動内容としており、道路施設の重要性や現状を広報しながら、日常生活の延長上で実施できるメンテナンスを体験型ボランティア活動として住民に提供しています。

※Civilian Activity Team in Shunan for Bridges

しゅうニャン橋守隊



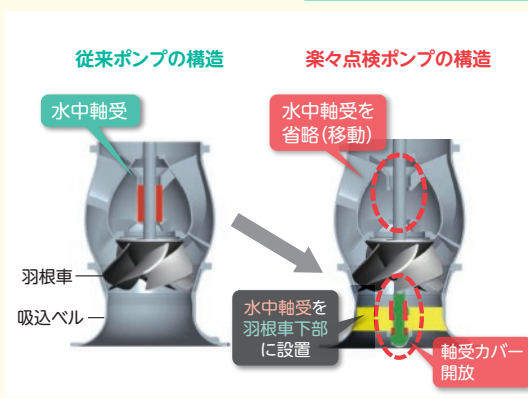
●技術開発部門

維持管理性を向上させた河川排水用新形立軸ポンプ(楽々点検ポンプ)の技術開発

河川の排水機場は浸水被害から地域住民や財産を守る重要な役割があり、排水機場に設置される大型立軸ポンプはその役割から故障による運転不能が許容されないため、定期的な維持管理による運転機能の確保が求められます。

従来、河川排水用の大型立軸ポンプの水中軸受の点検・整備は構造上、ポンプ本体を引き上げて分解する必要がありましたが、軸受の位置を工夫することで、ポンプを据え付けた状態のままでも水中軸受の点検・整備を可能としました。また、本開発技術（特許取得技術）により、点検・整備にかかる作業コストを大幅に削減でき、点検・整備による設備停止期間の短縮も図れるようになりました。

株式会社荏原製作所



国土交通省案件の特別賞・優秀賞などの受賞内容は、国土交通省のホームページで紹介しています。

国土交通省 インフラメンテナンス大賞

検索

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo03_hh_000162.html

じゅんかん育ち

食と下水道の連携「BISTRO下水道」

下水処理の過程で発生する汚泥には、肥料に欠かせないリンや窒素が含まれており、下水汚泥を発酵して肥料を作り、農作物を育てることができます。このような下水道資源（再生水、汚泥、熱、二酸化炭素など）を農作物の栽培などに有効利用し、農業などの生産性向上に貢献する取り組みを「BISTRO下水道」と称して、下水道を管理する地方公共団体や農業関係者などが連携して推進しています。

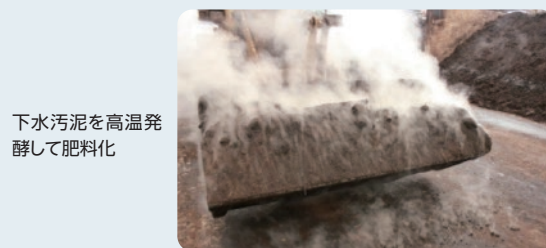
「じゅんかん育ち」と命名

一方で、下水道資源を有効利用して作られた食材「下水道発食材」の普及に向けては、下水道に対する印象面が課題となっていました。そこで、「BISTRO下水道」の広報活動の一環として、下水道発食材について「イメージ向上とともに、国民に親しまれやすい」愛称の公募を行いました。多数の応募があり、「BISTRO下水道ネーミングコンテスト審査会」の審査を経て、愛称を「じゅんかん育ち」に決定しました。

下水道資源のさまざまな活用



栄養を含んだ処理水で栽培した水稻



下水汚泥を高温発酵して肥料化



熱・CO₂をハウス内でのトマト栽培に活用

BISTRO下水道のパフレットはこちら！

BISTRO下水道 パフレット

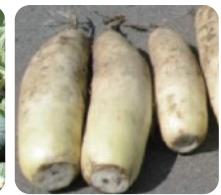
検索

http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewage/mizukokudo_sewage_tk_000449.html

じゅんかん育ち Q&A

Q 何を作っているの？

A 北海道や愛知県、兵庫県、佐賀県、静岡県などで、処理水や下水汚泥由来肥料などを活用し、お米やスイートコーン、大根、カボチャ、トマト、海苔、イチゴなどが生産されています。



Q 品質は良いの？

A 国土交通省の調査によれば、一般的な化学肥料と比較し「美味しくなった」、「生育が良くなった」といった結果も確認されています。佐賀市では肥料の品質の良さが口コミで広がり、毎年1,400t以上が完売となっています。また、福岡で行われたイベント販売ではその出来の良さが評判となり、ほとんどの農作物が売り切れしました。



イベント販売の様子（福岡県内のスーパー）

Q 安全なの？

A もちろん安全です!! 肥料として流通する際には法律の基準を守って生産しています。また、肥料の有害物質検査も継続して行い、ホームページで公表するなどの取り組みを行っています。

今後も、下水道資源を農作物の栽培などに有効利用する取り組みを進めている関係者と連携を進めて「じゅんかん育ち」を浸透・ブランド化させ、安全性と食材としての魅力について幅広く発信し、さらなる下水道資源の有効利用に向けて取り組んでいきます。